

令和6年度使用
小学校用教科用図書
採択参考資料

保 健

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	保健 306・506
4 大日本	保健 307・507
50 大修館	保健 308・508
207 文教社	保健 309・509
208 光文	保健 310・510
224 学研	保健 311・511

保 健

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 4 大日本 50 大修館 207 文教社 208 光文 224 学研

2 調査研究の観点

- (1) 健康や安全に関する課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、知識及び技能を確実に習得できる内容であるか。
- (2) 心身の発達段階に適応した健康の課題が取り上げられており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 「健康な生活」「体の発育・発達」「心の健康」「けがの防止」及び「病気の予防」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮がなされているか。
- (4) 挿絵、写真、図表等が適切であり、健康への関心を高め、課題の解決に役立つよう配慮されているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるように配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいように配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究…………… 観点(1) (2) (3) (4)
 - ①教科用図書名・サイズ
 - ②単元の構成
 - ③デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数
 - ④ユニバーサルデザインに関する配慮について
- (2) 課題をつかむ導入や課題の配列に関すること…………… 観点(1)
- (3) 身近な生活に関わる課題と生活経験等に基づいた言語活動の取扱いに関すること… 観点(2)
- (4) 他領域・他教科等との関連や発展的な学習の取扱いに関すること…………… 観点(3)
- (5) 健康への関心や課題の解決につながる資料に関すること…………… 観点(4)

1 概括的な調査研究

- (1) 教科用図書名・サイズ 「新編新しいほけん 3・4年」 A4判 45ページ
 「新編新しい保健 5・6年」 A4判 77ページ

(2) 単元の構成

学年	学習指導要領の内容		題材数	ページ数	写真(枚)	表グラフ(個)	対話的な学習	学びの活用	発展学習
3・4年	健康な生活	ア 健康な生活	1	6	4	0	3	1	0
		イ 1日の生活の仕方	2	8	21	2	2	2	0
		ウ 身の回りの環境	1	5	8	0	1	1	1
	体の発育・発達	ア 体の発育・発達	1	6	9	6	1	1	1
		イ 思春期の体の変化	1	6	6	3	1	1	2
		ウ 体をよりよく発育・発達させるための生活	1	7	16	1	1	1	2
5・6年	心の健康	ア 心の発達	1	4	1	0	1	1	0
		イ 心と体との密接な関係	1	4	2	0	1	1	0
		ウ 不安や悩みへの対処	1	7	3	1	1	1	0
	けがの防止	ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止	3	18	42	8	3	3	5
		イ けがの手当	1	5	7	0	1	1	3
	病気の予防	ア 病気の起こり方	1	4	1	0	1	1	0
		イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防	1	6	10	1	1	1	2
		ウ 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防	1	6	8	3	1	1	1
		エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	3	12	22	3	3	3	3
		オ 地域の様々な保健活動の取組	1	3.5	26	0	1	1	1

※ページ数は、中表紙や単元全体の振り返りのページを除いている。

※「対話的な学習」は、「調べる・解決する」の中の対話的な学びの箇所数及び「深める・伝える」の箇所数。

※「学びの活用」は、「まとめる・生かす」の箇所数。

※「発展学習」は、「はってん」の項目数。

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	3年	4年	5年	6年
二次元コード	16	14	38	30

※教科書内に二次元コードを表示。

(4) ユニバーサルデザインに関する配慮について

○書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

2 課題をつかむ導入や課題の配列に関すること

- 各単元の始めに、何を、どのように学ぶのかについて説明されている
- 各題材の始めに学習の課題として「～みましょう」という表現で学習する内容が記載されている。
- 各時間の導入として「気づく・見つける」の活動が設定され、身の回りや普段の生活を振り返るなどして、健康の課題を確認するようになっている。
- 各時間の学習が、「気づく・見つける」、「調べる・解決する」、「深める・伝える」、「まとめる・生かす」の4ステップ構成になっている。
- 各単元の終わりに、学習に関する内容が「資料」として、写真や図等で記載されている。
- 「けがの手当」では、すりきず、きりきず、鼻血、打ぼく、つき指、ねんざ、軽いやけどの手当を図示し、実習する内容を記載するなど、内容に応じて「実習」が設定されている。

3 身近な生活に関わる課題と生活経験等に基づいた言語活動の取扱いに関すること

- 学習内容に応じて、気付いたことや分かったこと、考えたこと等を記述する鉛筆マーク等で示されたメモ欄があり、考えをまとめて話し合う活動が設定されている。
- 「深める・伝える」では、身近な健康課題について、学習したことを基に、自分の考えを説明するための記述欄が設けられている。
- 言語活動の手がかりや根拠となる図や資料が示されている。
- 「自分の気持ちや考えを上手に伝えよう」では、自分と相手の両方の気持ちを考えた言葉のやりとりについて、例を基に考える学習活動が設定されている。

4 他領域・他教科等との関連や発展的な学習の取扱いに関すること

- 保健の学習内容と関連する運動領域や他教科の学習内容との関連、SDGs との関連について各単元の始めと学習活動の各ページに「つなげよう」として示されている。
- 「不安やなやみがあるとき」では、「体を動かして心を静めよう（こきゅう法・軽い運動）」の実習が取り上げられている。
- 「はってん」では、学習内容に関わる発展的な内容を図や資料等で示している。
- 「がん」については、「はってん」として取り上げ、がんについての説明や、予防等について記載されている。
- 性の多様性については、「思春期にあらわれる変化」で、個人差があり、「体の変化や自分の性、だれかを好きになる気持ちについて、ほかの人とちがうと感じたり、不安になったりすることがあれば、保健室の先生や、信らいてくれる人に相談しましょう」と説明されている。

5 健康への関心や課題の解決につながる資料に関すること

- 各単元の始めの「気づく・見つける」には、2ページにまたがるサイズの写真を掲載している。
- 「調べる・解決する」では、写真や図・表等の資料が示されている。
- 「スキルマーク」が新設され、マスクのつけ方や自転車安全利用五則などの、命や健康を守るために児童に身に付けてほしいスキルが取り上げられている。○「まめちしき」として学習内容に関する追加の解説が示されている。
- 「資料」として、内容の理解や課題の解決につながる科学的な資料が、写真や図、資料等を用いて取り上げられている。
- 健康への関心に関わる自己評価について、「どんな自分になりたいかな」が、3・4年の巻頭に、「どんな自分になれたかな」が5・6年の巻末に掲載されている。
- 学習内容と関連させて、アスリートの実践例や考え方について紹介されている。

1 概括的な調査研究

- (1) 教科用図書名・サイズ 「新版たのしいほけん 3・4年」 A4判 45ページ
 「新版たのしい保健 5・6年」 A4判 69ページ

(2) 単元の構成

学年	学習指導要領の内容		題材数	ページ数	写真(枚)	表グラフ(個)	対話的な学習	学びの活用	発展学習
3・4年	健康な生活	ア 健康な生活	1	4	9	0	2	1	1
		イ 1日の生活の仕方	2	8.5	20	0	2	2	1
		ウ 身の回りの環境	1	3.5	10	0	1	1	1
	体の発育・発達	ア 体の発育・発達	1	5	2	8	1	1	3
		イ 思春期の体の変化	2	7	2	2	0	2	2
		ウ 体をよりよく発育・発達させるための生活	1	3	4	1	1	1	1
5・6年	心の健康	ア 心の発達	1	3	0	1	2	1	0
		イ 心と体との密接な関係	1	2	0	0	0	1	0
		ウ 不安や悩みへの対処	1	4	1	2	2	1	0
	けがの防止	ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止	4	13	29	10	3	5	4
		イ けがの手当	1	4	2	1	1	1	4
	病気の予防	ア 病気の起こり方	1	2	0	0	1	1	0
		イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防	1	6	17	0	1	1	2
		ウ 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防	2	5	6	3	0	2	2
		エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	3	8	20	1	0	3	2
		オ 地域の様々な保健活動の取組	1	2	11	0	0	1	0

※ページ数は、中表紙や単元全体の振り返りのページを除いている。

※「対話的な学習」は、「話し合おう」の箇所数。

※「学びの活用」は、「活かそう」の箇所数。

※「発展学習」は、「はってん」の項目数。

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	3年	4年	5年	6年
二次元コード	7	7	16	12

※教科書内に二次元コードを表示。

(4) ユニバーサルデザインに関する配慮について

○書体や配色、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

2 課題をつかむ導入や課題の配列に関すること

- 各単元の始めは見開き2ページで構成され、何を、どのように学ぶかについて説明されている。
- 各題材の始めに、「～でしょうか」という表現で学習する内容が記載されている。
- 各時間の導入として「つかもう」の活動が設定され、身の回りや普段の生活を振り返るなどして、健康の課題を確認するようになっている。
- 各時間の学習が「つかもう」「話し合おう」「活かそう」の学習過程になっている。単元により「考えよう」が入っていたり、「話し合おう」の回数が増えたりしている。
- 各単元の終わりに学習内容が身に付いたか確認する「○年のまとめ」では、観点別のチェック欄及び記入欄が設けられている。
- 「けがの手当」では、「けがの手当をしよう」の実習として、すりきず、打ぼく・ねんざ、鼻血、やけど、切りきず、虫さされの手当が図示されている。

3 身近な生活に関わる課題と生活経験等に基づいた言語活動の取扱いに関すること

- 学習内容に応じて、身近な生活を振り返ったり、資料を読み取ったりして言語活動を行う「話し合おう」が設定されている。
- 「不安やなやみがあるとき」では、「自分と友達のよいところ」について、カードに書きながら伝え合う活動が設定されている。
- 言語活動の手がかりや根拠となる図や資料が示されている。
- 各単元の終わりの振り返り部分において、「～のために、これからどのようにしよう（生活しよう）と思いますか」という問いに対し、学んだことを言語化して振り返る内容が設定されている。

4 他領域・他教科等との関連や発展的な学習の取扱いに関すること

- 保健の学習内容と関連する運動領域や他教科の学習内容について、関連する教科、対象学年、単元名等が記載されている。
- 「不安やなやみがあるとき」では、「～心の健康アップ大作戦～（体の力の入れ方・ぬき方）」や「体ほぐしの運動」と「こきゅう法」の実習が取り上げられている。
- 「はってん」、「もっと知りたい!」では、学習内容に関わるより詳しい資料や発展的な内容が記載されている。
- 「がんの予防」が「はってん」として取り上げられており、「がんになる危険性を下げる5つの生活習慣」「がん検診」など、予防や早期発見について記載されている。
- 「思春期にあらわれる体の変化」や「思春期にあらわれる体の中の変化」では、「思春期には、自分や異性のことが気になり、仲良くしたいという気持ちが強くなったり、相手と気持ちがぶつかったりします」の記載とともに、どちらも「個人差がある」という説明になっている。

5 健康への関心や課題の解決につながる資料に関すること

- 「つかもう」「話し合おう」「考えよう」では、学習内容に関する写真や図・表等の資料が示されている。
- 「もっと知りたい!」として、学習内容に関する科学的な資料、専門家の話が、写真や図を用いて取り上げられている。
- 「ミニちしき」として、学習内容に関する追加の解説が欄外に示されている。
- 単元の始めに、学習内容に興味をもたせる図やフローチャートなどの学習ゲームが記載されている。
- 課題をつかむための手立てとして、巻頭に折り込みカードが掲載されている。
- プロアスリーの言葉、健康への取組が掲載されている。

1 概括的な調査研究

- (1) 教科用図書名・サイズ 「新小学校ほけん 3・4年」 A4判 49ページ
 「新小学校保健 5・6年」 A4判 73ページ

(2) 単元の構成

学年	学習指導要領の内容		題材数	ページ数	写真(枚)	表グラフ(個)	対話的な学習	学びの活用	発展学習
3・4年	健康な生活	ア 健康な生活	1	4	1	0	1	1	0
		イ 1日の生活の仕方	2	6	12	1	0	2	1
		ウ 身の回りの環境	1	4	13	0	1	1	2
	体の発育・発達	ア 体の発育・発達	1	5	6	6	1	1	2
		イ 思春期の体の変化	2	8	9	2	0	2	2
		ウ 体をよりよく発育・発達させるための生活	1	9	7	1	3	1	5
5・6年	心の健康	ア 心の発達	1	4	5	0	1	1	0
		イ 心と体との密接な関係	1	4	2	0	0	1	0
		ウ 不安や悩みへの対処	2	6	0	1	0	2	2
	けがの防止	ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止	3	14	25	9	3	4	3
		イ けがの手当	1	6	10	2	1	2	4
	病気の予防	ア 病気の起こり方	1	2.5	0	0	1	1	1
		イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防	1	7.5	10	1	1	1	4
		ウ 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防	2	6	5	2	2	2	5
		エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	3	8	17	3	0	3	2
		オ 地域の様々な保健活動の取組	1	3	18	0	0	1	1

※ページ数は、中表紙や単元全体の振り返りのページを除いている。

※「対話的な学習」は、「話し合う」、「教え合う・学び合う活動」の箇所数。

※「学びの活用」は、「まとめる・深める」の箇所数。

※「発展学習」は、「はってん（発展）」の項目数。

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	3年	4年	5年	6年
二次元コード	9	12	20	19

※教科書内に二次元コードを表示。

(4) ユニバーサルデザインに関する配慮について

○書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

2 課題をつかむ導入や課題の配列に関すること

- 各単元の始めに、「課題をつかもう」が設定されており、自分の身の回りや、これまでの経験を思い出して記入する活動がある。
- 各題材の始めに、「～でしょうか」という表現で「きょう（今日）の課題」が記載されている。
- 各時間の導入として、「話し合おう」「考えよう」「調べよう」「やってみよう（5・6年）」の活動が設定され、身の回りや普段の生活を振り返るなどして、健康の課題を確認するようになっている。
- 各時間の学習が、「話し合おう」「考えよう」「調べよう」「やってみよう（5・6年）」で構成されており、学習過程は学習内容によって設定されている。
- 各単元の終わりに学習内容が身に付いたかを確認する「学習をふり返ってみよう」があり、観点別のチェック欄及び記入欄が設けられている。
- 「けがの手当」では、すりきず、切りきず、鼻血、打ぼく・ねんざ・つき指、やけどの手当が図示され、実習する内容が「やってみよう」として設定されている。

3 身近な生活に関わる課題と生活経験等に基づいた言語活動の取扱いに関すること

- 学習内容に応じて、言語活動を行う「話し合おう」が設定されている。
- 「不安やなやみへの対処②」では、対処するためのさまざまな例が記載され、自分に合った解決方法を考える活動が設定されている。
- 言語活動の手がかりや根拠となる図や資料が示されている。
- 単元の終わりに、「学習をふり返ってみよう」として、学んだことを基にして、自分の生活で生かしたいことを考える活動が設定されている。

4 他領域・他教科等との関連や発展的な学習の取扱いに関すること

- 保健の学習内容と関連する他教科の学習内容について「保健 はってん『自然から身を守る』5年」、「道徳『友情・信頼』」、等の表記で示している。
- 「不安やなやみがあるとき」では、「呼吸法（腹式呼吸）」と「体ほぐしの運動」の方法が取り上げられている。
- 「はってん」では、学習内容に関わって、より詳しい資料や発展的な内容が記載されている。
- 病気の予防の「はってん」として、「より暮らしやすい社会を目指して 自然環境を大切にしよう」が示され、「健康・安全と自然環境」の関連、「自分にできる取り組み」、「SDGs」につなげている。
- 「がん」については、「はってん」として取り上げられ、「がんの起こり方」や「予防法」、「経験談」等について記載されている。
- 「不安やなやみへの対処②」の「はってん」として、「相談するときの話し方」や「友達の相談を受け止めるときの話し方」、「わたしの体験（体験談）」が記載されている。

5 健康への関心や課題の解決につながる資料に関すること

- 「話し合おう」「考えよう」「調べよう」「やってみよう」では、学習内容に関する写真やイラスト等の資料が示されている。
- 「しりょう（資料）」として、学習内容を深める内容の資料、自分の生活をふり返る資料、発展的な内容の資料、専門家による指導等が、写真や図を用いて取り上げられている。
- 「まめちしき（豆知識）」として、学習内容に関する追加の解説が欄外に示されている。
- 「学習をふり返ってみよう」では、学習による知識の定着を読み取る内容が示されている。
- 単元の始めに、学習内容に関する「アスリートとの対談」が掲載されている。

1 概括的な調査研究

- (1) 教科用図書名・サイズ 「新わたしたちのほけん 3・4年」 A4判 37ページ
 「新わたしたちの保健 5・6年」 A4判 83ページ

(2) 単元の構成

学年	学習指導要領の内容		題材数	ページ数	写真(枚)	表グラフ(個)	対話的な学習	学びの活用	発展学習
3・4年	健康な生活	ア 健康な生活	1	2	0	0	0	1	0
		イ 1日の生活の仕方	2	8	36	0	0	2	0
		ウ 身の回りの環境	1	5	4	0	0	1	2
	体の発育・発達	ア 体の発育・発達	1	3	5	6	0	1	0
		イ 思春期の体の変化	2	7	3	2	0	2	1
		ウ 体をよりよく発育・発達させるための生活	1	5	4	0	0	1	2
5・6年	心の健康	ア 心の発達	1	4	2	0	0	1	1
		イ 心と体との密接な関係	1	4	0	0	0	1	0
		ウ 不安や悩みへの対処	2	6.5	7	3	1	2	0.5
	けがの防止	ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止	3	18	49	8	0	3	3
		イ けがの手当	1	5	4	0	0	1	1
	病気の予防	ア 病気の起こり方	1	4	1	0	0	1	1
		イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防	1	5	12	0	0	1	1
		ウ 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防	2	8	14	4	0	2	5
		エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	3	13	24	1	0	3	5
		オ 地域の様々な保健活動の取組	1	3	1	0	0	1	1

※ページ数は、中表紙や単元全体の振り返りのページを除いている。

※「対話的な学習」は、「話し合おう」の箇所数。

※「学びの活用」は、「もう一歩自分の先へ」の印の箇所数。

※「発展学習」は、「発てん（発展）」の項目数。

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	3年	4年	5年	6年
二次元コード	2	4	14	12

※教科書内に二次元コードを表示。

(4) ユニバーサルデザインに関する配慮について

○書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

2 課題をつかむ導入や課題の配列に関すること

- 各単元の始めは見開き2ページで構成されていて、「～だろう」という問いで学習の見通しをもつようになっている。
- 各題材の始めに、「～だろう」という表現で学習のめあてが記載されている。
- 各時間の導入として、「調べよう」、「考えよう」、「やってみよう」の活動が設定され、身の回りや普段の生活を調べたり考えたりするなどして、健康の課題を確認するようになっている。
- 各時間の学習内容が「Mission」として示され、「調べよう」「考えよう」「やってみよう」「話し合おう」で構成されており、学習過程は学習内容ごとに設定されている。
- 「もう一歩先の自分へ」では、学習したことを自分の生活や未来に向けてどのように生かすのか、考えたことを書くようになっている。
- 「けがの手当て」では、すり傷、切り傷、鼻血、やけど、つき指・ねんざ・打ぼくの手当てが図示され、「かん単な手当ての実習」として設定されている。

3 身近な生活に関わる課題と生活経験等に基づいた言語活動の取扱いに関すること

- 学習内容に応じて、言語活動を行う「話し合おう」が設定されている
- 「不安やなやみへの対処①」では、「相談のしかた、受け方」の例が記載され、相談するとき心に心がけることについて考えを出し合う話し合いの活動が設定されている。
- 言語活動の手がかりや根拠となる図や資料が示されている。
- 各単元の終末に、「わたしの○○せん言」として学んだことを振り返るページがあり、自分の生活課題における改善点を記述し、伝え合う活動が設定されている。

4 他領域・他教科等との関連や発展的な学習の取扱いに関すること

- 「体のよりよい発育・発達と生活のしかた」の欄外には、既習事項である「生活のリズム」との関連についての説明が記載されている。
- 「不安やなやみへの対処②」では「いろいろな対処方法の実習」として、個人で行う「腹式呼吸」の方法や、ペアやグループで行う「体ほぐしの運動」の方法が取り上げられている。
- 「Episode」、「もっと考えよう課」、「もっと知っとこう課」(5・6年)では、学習内容に関わって、より詳しい資料や発展的な内容が記載されている。
- 「がん」については、「生活のしかたと病気①」の「発展」として取り上げられ、がんになるリスクを下げる5つの健康習慣や、1日に摂取する野菜や果物の量が記載されている。
- 性の多様性に関わり、「不安やなやみへの対処②」の「発展」として、性の不一致に関する悩みについて取り上げ、「不安やなやみには個人差があり、相談されたときは、相手の気持ちになって寄り添うことが大切だ」という内容の説明がされている。

5 健康への関心や課題の解決につながる資料に関すること

- 各題材の「Stage」では、学習内容に関する写真や図・表等の資料が示されている。
- 「ちょっとまった！」マークが記載されており、立ち止まって課題を考えたり、次の学習のヒントを理解したりするための問いが示されている。
- 健康問題やけが・事故の要因と結果の関係について、図や絵を用いた資料が掲載されている。
- 学習内容に関する追加の情報が「つぶやきくん」として示されている。
- 各ページの欄外に、学習内容に関する追加の説明等が示されている。
- 学習内容に関連する図や写真、情報などが、「もっと考えよう課」「もっと知っとこう課」として示されている。
- 学習内容と関連させて、プロアスリートからのメッセージが記載されている。

1 概括的な調査研究

- (1) 教科用図書名・サイズ 「小学ほけん 3・4年」 A4判 41ページ
 「小学保健 5・6年」 A4判 65ページ

(2) 単元の構成

学年	学習指導要領の内容		題材数	ページ数	写真(枚)	表グラフ(個)	対話的な学習	学びの活用	発展学習
3・4年	健康な生活	ア 健康な生活	1	4	0	0	0	1	0
		イ 1日の生活の仕方	2	6.5	9	1	2	2	1
		ウ 身の回りの環境	1	3.5	8	0	2	1	1
	体の発育・発達	ア 体の発育・発達	1	4	6	6	1	1	0
		イ 思春期の体の変化	2	6	8	2	0	2	2
		ウ 体をよりよく発育・発達させるための生活	1	6	6	1	1	1	3
5・6年	心の健康	ア 心の発達	1	5	7	0	1	1	0
		イ 心と体との密接な関係	1	2	0	0	0	1	0
		ウ 不安や悩みへの対処	1	5	3	2	1	1	2
	けがの防止	ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止	4	11	23	8	3	4	3
		イ けがの手当	1	5	10	0	0	1	2
	病気の予防	ア 病気の起こり方	1	2	0	0	1	1	0
		イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防	1	6	10	1	1	1	2
		ウ 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防	2	5	7	5	2	2	2
		エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	3	8	21	3	2	3	4
		オ 地域の様々な保健活動の取組	1	2	8	0	0	1	0

※ページ数は、中表紙や単元全体の振り返りのページを除いている。

※「対話的な学習」は、「話し合おう」の箇所数。

※「学びの活用」は、「学んだことを生かそう」の箇所数。

※「発展学習」は、「はってん」の項目数。

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	3年	4年	5年	6年
二次元コード	8	8	17	12

※教科書内に二次元コードを表示。

(4) ユニバーサルデザインに関する配慮について

○書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

2 課題をつかむ導入や課題の配列に関すること

- 各単元の始めに、4～5コマ漫画が設定されており、最後のコマに単元の学習に関連する問いを投げかけ、これから始まる学習内容を示している。
- 各題材の始めに「学習課題」として、「～でしょうか」という表現で学習課題が記載されている。
- 各時間の導入として「見つけよう」の活動が設定され、身の回りや普段の生活を振り返るなどして、健康の課題を確認するようになっている。
- 各時間の学習が、「見つけよう」から「学んだことを生かそう」までで構成され、題材によって「調べよう」「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」が設定されている。
- 各単元の終わりに学習したことを確認し、学習を振り返る活動として「学習のまとめ」が設定されている。
- 「けがの手当」では、すりきず、切りきず、鼻血、打ぼく・ねんざ・つき指、やけどの手当が図示され、実習する内容が「やってみよう」として設定されている。

3 身近な生活に関わる課題と生活経験等に基づいた言語活動の取扱いに関すること

- 学習内容に応じて、言語活動を行う「話し合おう」が設定されている。
- 「学んだことを生かそう」では、学んだことを生活に生かすことについて考えたり、友達に伝えたりする言語活動が設定されている。
- 言語活動の手がかりや根拠となる図や資料が示されている。
- 「人との接し方を考えてみよう」では、「気持ちを大切にしたコミュニケーション」の方法や「自分と人とのきより感」について考える学習活動が設定されている。

4 他領域・他教科等との関連や発展的な学習の取扱いに関すること

- 保健の学習内容と関連する運動領域や他教科の学習内容について、関連教科、対象学年、単元名等が記載されている。
- 「不安や悩みへの対処」では、「やってみよう」として「腹式呼吸」と「胸式呼吸」の実習が取り上げられている。
- 「さらに広げよう深めよう」や「はってん」では、学習内容に関わって、より詳しい資料や発展的な内容が記載されている。
- 「がん」については、「はってん」として取り上げ、がんについての説明や予防等について記載されている。
- 性の多様性に関わり、「はってん」の「性についてのなやみ」として取り上げ、「『体の性と心の性がちがう気がする』と感じる人や、『異性に関心をもてない』と感じる人などがいるかもしれません」と記載されており、自分の性のことで不安なことや心配なことがあったら、信頼している大人や、電話相談窓口で相談することができるという内容になっている。

5 健康への関心や課題の解決につながる資料に関すること

- 「調べよう、考えよう、話し合おう」では、写真や図・表等の資料が示されている。
- 「〇〇に聞く」では、学習内容に関することで専門的な知識をもっている人によるアドバイスが記載されている。
- 巻頭に、どうして保健の学習をするのかについて、6コマの漫画で説明がされている。
- 「科学のとびら」として、学習内容に関わる科学的な資料が、写真や図等を用いて取り上げられている。
- 「まめちしき」として、学習内容に関する追加の解説が示されている。
- 巻頭に、オリンピック・パラリンピック選手や著名人の、運動との関わり方や健康に関する考え方について、写真とともに記載されている。

1 概括的な調査研究

- (1) 教科用図書名・サイズ 「新みんなのほけん 3・4年」 A4判 49ページ
 「新みんなの保健 5・6年」 A4判 89ページ

(2) 単元の構成

学年	学習指導要領の内容		題材数	ページ数	写真(枚)	表グラフ(個)	対話的な学習	学びの活用	発展学習
3・4年	健康な生活	ア 健康な生活	1	7	6	0	1	1	2
		イ 1日の生活の仕方	2	8.5	14	2	2	2	1
		ウ 身の回りの環境	1	4.5	4	1	1	1	3
	体の発育・発達	ア 体の発育・発達	1	5	0	6	1	1	1
		イ 思春期の体の変化	2	9	3	0	1	2	2
		ウ 体をよりよく発育・発達させるための生活	1	4	4	0	0	1	1
5・6年	心の健康	ア 心の発達	1	4.5	2	0	1	1	0
		イ 心と体との密接な関係	1	5	2	0	1	1	1
		ウ 不安や悩みへの対処	1	8.5	10	1	1	1	2
	けがの防止	ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止	3	16	29	5	3	3	3
		イ けがの手当	1	6	0	0	1	1	2
	病気の予防	ア 病気の起こり方	1	5.5	3	1	1	1	3
		イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防	1	4.5	8	0	1	1	1
		ウ 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防	2	8.5	7	3	2	2	2
		エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	3	13	21	4	3	3	3
		オ 地域の様々な保健活動の取組	1	4.5	24	0	1	1	1

※ページ数は、中表紙や単元全体の振り返りのページを除いている。

※「対話的な学習」は、「話し合う」の箇所数。

※「学びの活用」は、「学びを生かす」の箇所数。

※「発展学習」は、「はってん（発展）」の項目数。

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	3年	4年	5年	6年
二次元コード	7	8	14	11

※教科書内に二次元コードを表示。

(4) ユニバーサルデザインに関する配慮について

○書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

2 課題をつかむ導入や課題の配列に関すること

- 各単元の始めに、「学習の目標」と学習の進め方が設定されており、大まかな学習内容と進め方が提示されている。
- 各題材の始めに、「～ですか」「でしょうか」という表現で学習する内容が記載されている。
- 各時間の導入として「ふりかえる」「資料を読み取る」「予想する」などの活動が設定され、普段の生活を振り返ったり、身近な課題に着目して考えたり予想したりするなどの活動が設定されている。
- 各時間の学習が「ふりかえりや読み取り」「話し合いや整理、実践」、「学びを生かす」の、3つの学習過程になっている。
- 各時間の終わりに、1時間で学習したことを活用し、新たな課題を解決するための「ほけんのはこ」が設定されている。
- 「けがの手当」では、すりきず、切りきず、鼻血、やけど、ねんざや打撲く・つき指の手当を図示し、友達と確かめ合いながら身に付ける活動が設定されている。

3 身近な生活に関わる課題と生活経験等に基づいた言語活動の取扱いに関すること

- 学習内容に応じて、導入でふりかえったこと、読み取ったことをもとに課題をとらえ、その課題を解決するために調べたり、話し合ったりする活動が設定されている。
- 学習内容をもとに、自分の生活や健康に関する課題を解決するための「学びを生かす」が設定されている。
- 言語活動の手がかりや根拠となる図や資料が示されている。
- 各単元の終わりの「学習をふり返る」では、言語活動にかかわる「学習したことを伝える」や「明日につなぐ」の項目が設定されている。

4 他領域・他教科等との関連や発展的な学習の取扱いに関すること

- 各単元はじめの「つなぐ」で、保健の学習内容と関連する運動領域や他教科の学習内容について示されている。
- 「不安や悩みへの対処」では、「体ほぐしの運動」と「腹式呼吸法」などの実習が取り上げられている。
- 「はってん（発展）」、「もっと知りたい・調べたい」では、学習内容に関わって、より詳しい資料や発展的な内容が記載されている。
- 「がん」については、「発展」として取り上げ、Q&Aの形式でがんの原因や予防の方法について記載されている。
- 性の多様性に関わり、「体の中で起こる変化」では、「異性への関心が高まり、異性のことが気になったり、仲よくしたいという気持ちが強くなったりする人もいます」と記載され、「変化が起こる時期や起こり方には、個人差があります」という表現になっている。

5 健康への関心や課題の解決につながる資料に関すること

- 各時間の導入の「くらべる」「調べる」等には、写真や図・表等の資料が示されている。
- 「かがくの目」では、学習内容に関する科学的な資料が、写真やグラフ等を用いて取り上げられている。
- 「ことば」として、保健の学習で必要となる用語の解説が示されている。
- 「おうちで・ちいきで」では、実生活と結び付けて課題を把握したり考えたりする問いが記載されている。
- 実際に試して確かめる学習活動として、「実験（3・4年）」や「実習（5・6年）」の活動が設定されている。
- 「プチ」として、学習内容に関する追加の解説が記載されている。